

建設系高等学校・高等専門学校学生との座談会概要

福島県建設業協会
令和3年1月

○背景

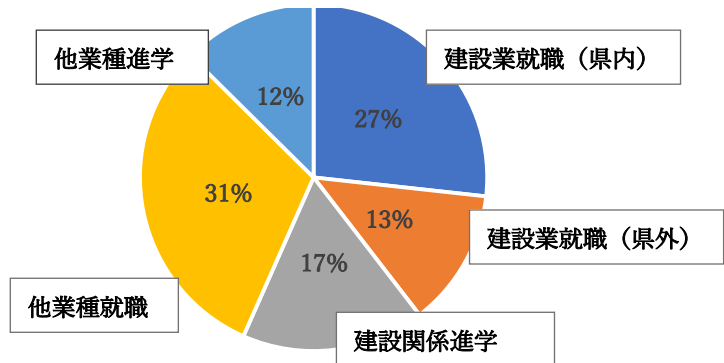
建設業界は働き手の高齢化が進行しており、次世代への技術の継承の観点からも担い手確保が喫緊の課題となっています。

一方で高校卒業者の建設業求人数と就職者には大きな乖離があり、昨年度 1,524 人の求人に対して 225 人の就職に留まり、充足率は 14.8%と低い数字になっています。

このことは、建設系学生の就職先からも見てとれ、40%が建設系企業へ就職し 17%が建設関係への進学となっていますが、40%以上の学生が建設系以外への就職進学であり、高校で学んだ専門知識が活かされていないという残念な結果となっています。

建設系学科を有する高等学校の進路状況

<調査対象校令和元年度 13 校 445 名>



また、建設業は旧 3 K（きつい、汚い、危険）に代表されるように、負のイメージが先行し、座談会前のアンケートでも「休みが少ない」「労働時間が長い」といったことが上位を占めています。

◇目的

私ども建設業界は、新 3 K（給料、休暇、希望）を目指して、業務の効率化や休日の取得など働きやすい環境の整備に日々取り組んでいるところです。

このようなことから学生の皆さんに、今の建設業界の実態を理解していただき、一人でも多くの人に入職いただけるよう、また、現実との違いによる早期離職解消に向けて、昨年度より「福島県建設業産学官連携協議会」の協力の下、座談会を開催しているところです。



座学の風景

□進め方

座談会は、座学として建設業の仕事について、県及び開催校の卒業生等数人の講師の方から話をしていただき、その後講師やアドバイザーの方を交えたグループに分かれて意見交換を行い、学生の方の様々な疑問に答える中で、今の業界の取り組みへの理解を深めるとともに、就職への不安を少しでも解消できるようにと考えて行っているところです。



座談会の風景

□主な学生からの質問

- ・何故、今の会社に入ったのか。
- ・土日の休みはどうか。また残業はどのくらい行うのか。
- ・会社の人間関係はどうか。
- ・危険作業が多いというイメージがあるが、実際はどうか。
- ・働き続けられる秘訣は何か。

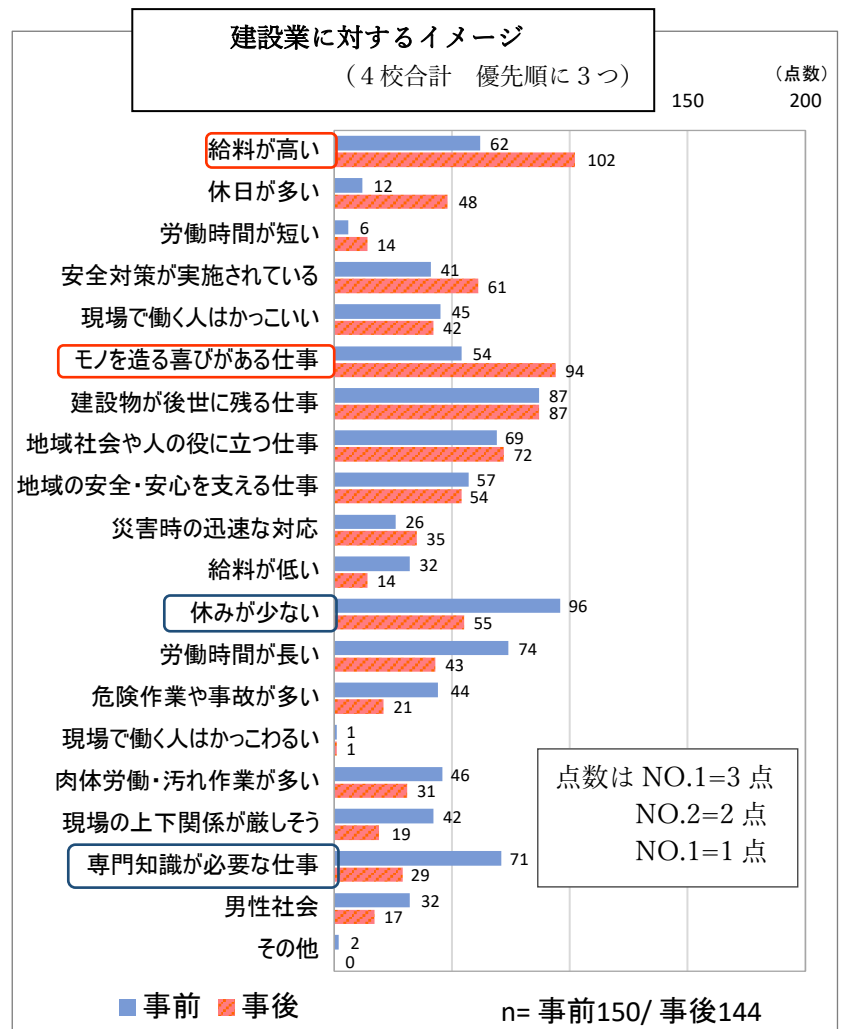
□座談会を終えて

この結果、座談会後に行ったアンケートでは、前述の「休みが少ない」や「労働時間が長い」といった負のイメージが改善され、「モノを造る喜びがある仕事」や「安全対策が実施されている」など、好感の持てる意見が多くなったことは、座談会により一定の成果があったものと考えています。

今後、この座談会により、学生諸子が建設業に少しでも興味を示し、また理解をいただき、私どもとともに建設業界を盛り上げていただければと願っています。

※座談会前後で差が大きい項目

- 増加した項目
- 減少した項目



※各学校との座談会詳細は、
以下を参照してください。

- 福島工業高等専門学校 令和2年11月12日開催 [→詳細はこちら](#)
- 岩瀬農業高等学校 令和2年12月10日開催 [→詳細はこちら](#)
- 二本松工業高等学校 令和2年12月11日開催 [→詳細はこちら](#)
- 福島明成高等学校 令和2年12月15日開催 [→詳細はこちら](#)